

原爆被災

鎮西学院平和教育ハンドブック

Chinzei Gakuin School Peace Education Handbook

長崎ウエスレヤン大学 Nagasaki Wesleyan University

鎮西学院高等学校 Chinzei Gakuin High School

鎮西学院幼稚園 Chinzei Gakuin Kindergarten



廃墟の中に見える鎮西学院の被爆校舎(現在の活水中学・高等学校): B

学校法人 鎮西学院

平和宣言

Declaration for Peace

さいわい

幸福なるかな平和ならしむる者 (マタイ5章9節)

War is Hell(千葉胤雄院長の被爆時の叫び)

悲惨な被爆体験を持つ鎮西学院は

神の前に深い罪を悔い改め

核廃絶とあらゆる戦争をなくすために祈り

地の上に真の平和を来たらすことを宣言する

2005年8月9日

被爆60周年の日に 鎮西学院



平和宣言について

院長 林田秀彦

1945年8月9日、午前11時2分、長崎浦上上空で炸裂した原子爆弾は、7万5千余の尊い人命を奪い、全ての建造物を破壊し灰塵に帰した。

鎮西学院は、爆心地より約500メートルの至近距離にあったため、その惨状は言語に絶するものであり、竹の久保校舎は壊滅し教職員8名、生徒110名余の愛する者の命が一瞬にして奪い去られた。

千葉胤雄院長(当時教頭)はその惨状を「阿鼻叫喚の生き地獄だ!」"War is Hell"この言葉を何べんも心の中で繰り返した」と書き付けておられる。

憎み争う人間の罪は、原爆という神を畏れぬ兵器をもって、人類を滅亡の淵へと落とし入れた。

2005年8月9日、被爆60年祈念にあたり、悲惨な体験を持つ鎮西学院は、神の前に深い罪を悔い改め、核廃絶とあらゆる戦争をなくすために祈り、地の上に真の平和を来たらすことを宣言する。

鎮西学院は、「敬天愛人」の精神をもって、他者との共生を求め、Only One for Othersとしての魂の教育に取り組み、敵意という隔ての中垣を取り除き、平和を来たらせる和解の使者となる新しい人(エフェソ書2章14節)の育成を目指す。

平和への祈り

アッシージのフランチェスコ

わたしを平和の道具にしてください。

憎しみのあるところに愛を

争いのあるところに和解を

分裂には一致を 疑いには信仰を

誤りには真理を 絶望には希望を

悲しみには喜びを

闇には光をもたらすことができますように。

わたしたちがあれこれ求めることを止め

かえって

慰められようとするより先慰めることを

理解されようとするより先理解することを

愛されようとするより先愛することを

望ませてください。

与えるから受け、ゆるすからゆるされ

死のうちに永遠に生きるのだから。

1945年8月9日の長崎の街

Nagasaki City in August 9, 1945

1945年(昭和20年)8月9日の長崎市

人口 約240,000人

原子爆弾による被害者数
(1945年12月末までの推定)

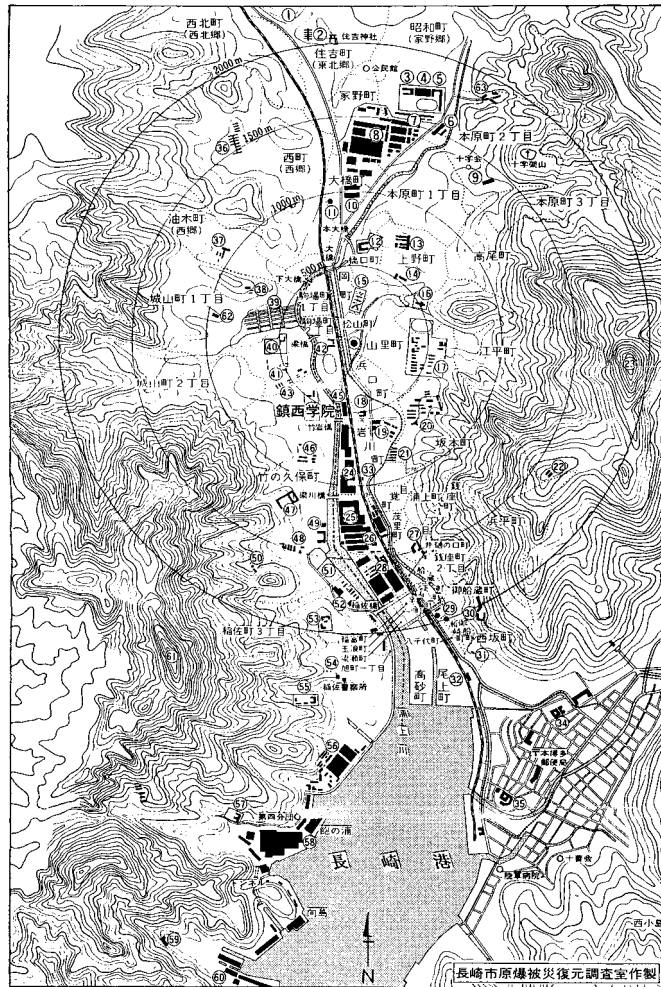
死者 73,884人
負傷者 74,909人

(1950年 長崎市原爆資料保存委員会調査)

被爆した長崎の街 Nagasaki City after the Atomic Bombing

長崎の街は午前11時2分1発の原子爆弾が炸裂し、一瞬のうちに焼け野原となった。市内全体に紫色を帯びた黒煙らしいものが一面に立ち込め、天日もそのため暗い。正にこの世の地獄である。爆心地西方約500mの丘の上にあった鎮西学院は、即死68名、後日死35名、生存者僅か15名であった。鎮西学院校庭で被爆直後運動場の真中に誰か1人、東方を向いて正座している、気が狂ってわけのわからない事をわめきながら走り回っている者もいた。今も残る「1本足鳥居」。原爆の威力のすごさをあますことなく伝えている。建物全体が一瞬のうちに破壊され、その後の火災と高度の放射能障害のため多くの方々が亡くなった。熱線と爆風により、多くの人は水ぶくれの背中、垂れ下がった皮膚、血まみれの皮膚をふるわせていた。アイゴーアイゴーと泣き叫ぶ声、朝鮮人被爆者の方々もいた。

長崎市原爆被災地復元地域図 (爆心地より2000mの範囲内)



主要な施設名

- | | | | |
|----------------------|-----------------|-------------|------------------|
| 1 三菱兵器地下工場 | 17 長崎医科大学 | 34 市役所 | 50 市営火葬場 |
| 2 " 住吉女子寮 | 18 三菱造船浜口寮 | 35 県庁 | 51 三菱造船貯木池 |
| 3 師範学校寄宿舎 | 19 三菱工業青年学校 八工場 | 36 三菱兵器西郷寮 | 52 三菱造船福佐製材所 |
| 4 師範学校 | 20 長崎医大附属病院 | 37 市立商業学校 | 53 福佐国民学校 |
| 5 西浦上国民学校 | 21 三菱兵器山王寮 | 38 護国神社 | 54 福佐外人墓地 |
| 6 純心女子学園 | 22 金比羅山兵舎 | 39 城山町市営住宅 | 55 朝日国民学校 |
| 7 三菱造船船型試験場 | 23 金比羅山 | 40 城山国民学校 | 56 三菱電機長崎製作所 |
| 8 三菱兵器大橋工場 | 24 三菱製鋼製鋼所 | 41 三菱電機城山寮 | 57 館の浦国民学校 |
| 9 浦上第一病院(現聖フランシスコ病院) | 25 三菱兵器茂里町工場 | 42 三菱造船駒場寮 | 58 三菱造船館の浦工場 |
| 10 三菱造船大橋部品工場 | 26 三菱製鋼国民学校 | 43 三菱製鋼至誠寮 | 59 立神国民学校 |
| 11 西部ガス大橋工場 | 27 三菱造船幸町工場 | 44 鎮西学院 | 60 三菱造船立神工場 |
| 12 山里国民学校 | 28 西部ガス長崎支社 | 45 三菱電機鑄造工場 | 61 福佐山 |
| 13 県立工業学校 | 29 西坂国民学校 | 46 環浦中学校 | 62 マリヤ園(三菱造船清明寮) |
| 14 盲啞学校(三菱造船毛工場) | 30 西坂国民学校 | 47 湘国民学校 | 63 三菱兵器半地下工場 |
| 15 長崎刑務所浦上支所 | 31 JOAG長崎放送局 | 48 市立長崎病院 | ● 爆心地 |
| 16 浦上天主堂 | 32 長崎駅 | 49 三菱製鋼任延工場 | |



爆心地松山町一帯:B



原爆を受けた浦上駅附近



鎮西学院校舎東壁:A



鎮西学院周辺城山2丁目
三菱城山寮跡:E



山王神社風景:B



破壊した城山国民学校一帯:E



三菱造船所幸町一帯:E



茂里町三菱兵器工場:E

千葉胤雄先生の8月9日

(第18代院長・当時教頭)

The Diary of Chiba Taneo,
the Vice President, August 9, 1945



被爆前の竹の久保校舎



千葉胤雄先生の8月9日の日記



原爆被災後の竹の久保校舎:C



院長
千葉胤雄先生

1945(昭和20)年8月9日(木)晴れ 午前11時頃、職員室で仕事をしていると突然小型飛行機の急降下らしい物^{もの}凄^{すご}い音がきこえて来た。敵機だろうか味方機だろうかと思っている瞬間、ドカンという物音に思わず机の上に顔をふせた。身近に起こる物凄い物音! これはてっきり学院に、しかも職員室に爆弾が命中したものだと思った。立ち上がって歩こうとするが眼が見えない。盲目にでもなったのではないかと心配しているうちに室内がだんだん明るくなってきた。部屋には真っ黒い煙がもうもうと立ち込めていたので視力がきかなかったのだという事がわかってホッとした。

そのうち室内にいた外の先生達の声が聞えてきた。目茶苦茶に壊れた机、本棚、椅子の中、まだ屋内に立ち込めている煙の中を手探りで出口を探している。夢中で外に飛び出したが二階廊下は既に火を発していたので一階に下りて、御真影(天皇の写真)を奉安してある校長室にかけつけたが、その時既に校長室も隣の研究室も炎々と燃えていて如何とも仕様がなかった。下に降りるとまさに阿鼻叫喚(苦しみ^{あびきょうかん}に耐えられずわめき叫ぶこと)の生き地獄だ! 至る所から救いを求める声、苦痛を訴える呻き^{うめ}が聞えてくる。万一にも物凄い爆風のためご真影が校庭に飛ばされているようなことはあるまいかと案じて校長室の窓下面を探したがどうしても発見できなかった。

直ちに玄関に引き返して負傷者の救出にかかる。小使室の前から、古川小使に古瀬給仕らしい声が聞えるのでその方へ行く。2人ともコンクリートの壁の下敷きになっているのだ。先ず古川を救い出そうと思って、かぶさっている壁を取りのけようとするが針金のネットワークのためどうしても取り除く事が出来ない。梃子^{てこ}を使っても駄目だ。古瀬の方をやってみると案外簡単に助け出されそう。階上に火は、段々下へ迫ってくる。事務室も火の海だ。やっとの事で古瀬の救い出しに成功した。見たところ大した傷もなさそう。運動場へ抱えて行く。直ぐ引き返して古川の救出にかかる。あらゆる手を尽くしてみたがどうしても上になっている壁をのけることが出来ない。いよいよ火が身近に迫ってきた。古川を励まし涙をのんで玄関を外に出る。落ち着いた声で「天皇陛下万歳」を唱えているのが聞えてくる。

校庭にはまだ梶原先生と有田先生の姿が見える。売店西側からふと上を仰くと三階階段の踊り場の窓から3年の前田が顔を出している。「早く降りろ!」と叫ぶけれども傷ついているらしくジッとしたまま動かない。2階廊下の上を用心しながら前田の救出に駆け上がる。背中を怪我しているらしく床を血だらけにして倒れている。抱くようにして運動場へ運び出し古瀬の傍らへ置く。目が見えなくなっただけでいい。東和紀もそこへ来ていた。



校舎1階中央部床と梁が地下へ落下:E



校舎1階内部の損傷:E



校舎1階の梁と床崩壊:C



校舎1階内部柱の崩壊:C

頑丈そのもののごとき四階建ての校舎は無残に破壊され西の方へ傾いている。控所、武道場は木っ端みじんだ。ようやく周囲を見渡せば眼の届く限り凄惨な焼け野原だ。あっちでもこっちでも火の手が上がっている。そして市内全体に紫色を帯びた黒煙らしいものが一面に立ち込め、天日もそのために暗い。正にこの世ながらの地獄である。“War is Hell”（戦争は地獄だ）の言葉を何べんも心の中で繰り返した。この分では恐らく全市灰燼に帰したのであろう。運動場の真ん中に誰か1人、東方を向いて正座している。気が狂ってわけのわからない事をわめきながら走り回っている者もいる。

校庭から川の方へ下りようとしたが火災のため難しいので武道場のわきから倒れて目茶目茶になった家々の材木の間をかきわけかきわけ安全地帯へ向かう。この時分より著しく疲労を感じず。途中、住吉、山崎、栗山、馬場その他全部にて6、7名の自衛防護団員の避難せると遭う。この頃より激しく嘔吐を催し、気分悪く立つことも歩くことも出来ず。附近に集まってくる負傷者数知れず。午後5時頃。栗山と2人で市営住宅へ向かう。火災のため城山の奥の方へ迂回してやっと自宅付近へたどり着く。

有田先生、片岡先生等八幡神社下の道路にあり、胤量（千葉先生長男）の姿を見たときはさすがに嬉しかった。大急ぎで倒れた家の方へ行く。喜久子ちゃんは軽い負傷で助かっているが愈（千葉先生妻）の行方がわからないというので狂気のごとく探し回る。ちょうど井戸の傍らへ来た時、救いを求めている声が聞こえてきた。確かに愈の声だ。「秋元の奥さん、……」と呼んでいる。声のする方に行ってみると、井戸の東側に井戸の縁に支えられた木材下に仰向けに倒れている愈の姿が目についた。愈だ、まちがいない愈だ、愈が生きていたのだ！早速、片岡先生の協力を得て痛がる愈を負んぶして道路へ運んだ。体中負傷しているらしく頻りに苦痛を訴える。救急袋から薬品、包帯を出して応急手当を行う。日が暮れると盛んに敵機が飛んで来る。まだ勤務先から帰って来ない道子（千葉先生長女）のことも気にかかる。一睡もしないうちに10日の朝を迎えた。

参考文献：「浦上原頭の廃墟の中より……鎮西学院創立110周年記念事業・原子爆弾被災記録集」（千葉胤雄先生の日記、鎮西学院発行、1991年）



校舎東側玄関付近:E



校舎2階爆風と火災による室内の損傷:C



校舎北側4階部分の被害:E



原爆で破壊された竹岩橋と鎮西学院



鎮西学院中学校校舎南西側より見る:D

長崎市鎮西学院建築物内における

原子爆弾災害調査報告

Report on the Damage Caused by the Atomic Bomb
on the Chinzei Gakuin School Buildings in Nagasaki City

東京大学医学部調査団 University of Tokyo, School of Medicine Investigation Group

鎮西学院中学校は爆心地の西方約0.5km、小高い丘の上にある、「コンクリート」4階建てとその西南隅に接続する木造の独立家屋（雨天体操場）からなっている。学生の教育のほか三菱製鋼会社、三菱電機会社の工場として使用されていた。爆発の当時建築物内には学校職員10名、残留生徒21名、工員87名、計118名がいた。この建物は爆発衝撃をまともに受ける位置にあったため、惨害殊に著しく、4階面は全部崩壊、3階面もまた爆心に近い北側面は著しく崩壊するに至った。人員では即死68名、後日死35名、生存僅かに15名である。生存者もほとんど全部障害を受け、無障害者はただ1人であった。

1 地下室の状況

地下室は主建築中央にあって、この建造物中では最も安全な所であった。中に5名の男女がいた。1名は放射能障害で後日死、ほか4名は生存しえたが、2名は放射能障害症状を現し、他の2名は顔面に被片創を受けただけで明らかな放射能障害は認められない。

2 第1階の状況

第1階は地下室に比べて人員の損傷率が高い。第1室11名うち2名は爆風に吹き飛ばされついで器物の下敷きで即死、8名は爆射熱傷を受けた者もいて大多数放射能障害で後日死亡、1名は熱傷を受けただけで放射能障害症状は明らかでない。第2室小室内では2名中1名圧死、1名は鎖骨骨折で生存。第3室玄関付近には待機していた自衛防護団員がいたが入口及びその付近の外庭にいた者は爆圧のため即死、廊下で「コンクリート」壁の遮蔽（シャハイ）の陰にいた1人は頭部挫傷を受けたのみで生存（第1室12名中即死9名、後日死2名、生存受傷者1名）。1階においても廊下を隔てて爆心地と反対側の室にいた者には生存者が比較的多い。それは第1室と第2室の3名である。しかしいずれも放射能障害症状は著明である。（第1室・第2室8名中即死1名、後日死4名、生存受傷者3名）

3 第2階の状況

第2階は地下室及び第1階に比べて一層人員の損傷が著しくなる。すなわち爆心地に面した第1～第3室には多数の男女がいたが、全部死亡している。しかも全部即死である。その原因としては爆圧による者、また室の崩壊が著しいので下敷きになった者もある。なお火災が廻って逃げられず焼死した者もあると考えられる。即死を免れ後日死を来した者も大多数は熱傷を蒙り、かつ放射能障害症状著明である。第2階の南端の第4室には鎮西学院の職員8名がいたがこの室には比較的衝撃が軽かったらしく即死がない。しかし大多数は極めて著明な放射能障害を受け、その中の3名はそのためついに後日死するに至った。ただ1人は全く奇跡的に何らの障害もうけなかった。（65歳男）第4～第5室44名中即死25名、後日死14名、生存受傷者4名、生存非傷者1名）

4 第3階の状況

第3階では爆心方向に面した第6室のみに6名の人々がいたが、この部屋は爆圧によって著しく崩壊したのでそれとともに全部圧碎即死を受けたようである。

5 第4階の状況

第4階は爆圧によって全体が崩壊した。第7室にいた3名も全部死亡している。

6 附属木造家屋の状況

主建築の西南隅に続いた独立木造家屋内には多数の男女が働いていたが、この家屋全体が猛烈な爆圧によって一瞬にして吹き飛んで破壊されついで焼失した結果、大多数の人々が爆圧で即死し、5名だけが即死を免れたが高度の放射能障害のために後日死亡した。（第6室・第7室27名中即死22名、後日死5名）

平和の祈りと鎮西学院 Prayers for Peace and Chinzei Gakuin School

鎮西学院は原爆によって壊滅した。その廃墟の中から、「千葉プラン」というビジョンをもって奇跡の復興をとげた。千葉院長は、生活そのものをおして学ぶ「生活学校の理想」を掲げた。それは酪農や地域活動を通して人格を養う新しい形の教育であった。諒早に移り、山林を開き、新しい校地を造った。この作業を、アメリカ、中国、および日本各地から集まったボランティアの青年達33名、鎮西学院の教師・生徒も行った。1949年のことである。この国際協力による炎天下の作業は、校地づくりであるとともに「平和を造り出す」働きでもあった。

鎮西学院の復興の大きな力になったのは、1947年来日したウィルキンス牧師であった。彼はアメリカの原爆による惨禍をまのあたりにして心を痛み、以後20数年にわたり、アメリカの教会と共に鎮西学院に対する援助を続けた。アメリカには今も原爆投下を正当化する意見が根強くあるが、戦後すぐに原爆の加害責任を果たそうと力の限りを尽くしたアメリカ市民がいたこと、そしてその尽力によって鎮西学院が支えられてきたことを忘れてはならない。日本は原爆の被害者であっただけでなく、戦争によってアジアの人々に対して言葉に尽くせない苦難を与えた。鎮西学院は海外の学校、特にアジア各国の学校と姉妹校になっている。これは謝罪と償いの面からも大きな意味がある。戦争の悲劇をくりかえさないために、国境を超え、民族や宗教の壁をこえて、世界の人々と相互理解を深め、「平和を造り出す者」になろうではないか。その決意のシンボルとして「ピースチャペル」が建てられている。



平和を祈る献花(8月9日)

1977年8月、原爆犠牲者慰霊の平和祈念碑を建立。この年より毎年8月9日、生徒・教職員・同窓生が集い平和祈念礼拝を守り、平和祈念碑に献花をささげ、世界平和を祈っている。

鎮西学院の平和祈念への取り組み Projects for Peace Memorial organized by Chinzei Gakuin School

1945.08.09 原子爆弾投下により校舎壊滅し、職員8名生徒110余名が犠牲となる。

1946.08.09 長崎銀屋町教会にて第1回平和祈念礼拝を執り行う。

1950.05.13 千葉胤雄院長、原子病再発により再入院この日召天。復興の尊い人柱となる。

1959.05.24 原爆慰霊ピースチャペルの建立。

1970.03.03 広島、長崎両原子爆弾被爆都市より米国へ平和使節団の派遣を決定し、非核・平和メッセージを米国トルーマン元大統領に届けた。両市とも鎮西学院関係者から代表が選ばれた。

団長 松本卓夫氏(卒業生・旧中14回卒、被爆当時広島女学院長)

植田カツエ氏(本学短大教授)

1977.08.20 原爆犠牲者慰霊の平和祈念碑を建立。

1981.10.23 創立100周年、竹の久保校舎跡(原爆被災)の碑建立。

1981.11.06 創立100周年、コレル女史胸像除幕(オペラ「蝶々夫人」の原作者の姉)

この像はコレル夫人が播いた文化的一粒の種子を記念するとともに、鎮西学院が1881年建学以来遭遇した火災や、特に原爆の惨禍にも耐え抜いた厳しさと、また学院の方針である、人を愛する優しさを象徴した。

創立100周年にはオペラ歌手東敦子さんを招いて学院は音楽会を開いた。

この作品は東さんの夫仁田原英二氏の作品である。

1991.10.23 創立110周年(長崎ウエスレヤン短期大学創立25周年)

原子爆弾被災記録集「浦上原頭の廃墟の中より」を刊行。

2005.08.09 被爆60年祈念「平和の鐘と平和宣言の碑」を建立。



平和祈念碑除幕式



トルーマン元大統領と会見する松本卓夫氏「すまなかった」とのことばは聞かれなかった。



コレル女史像



原子爆弾被災記録集



鎮西学院の平和の鐘
Peace Bell of Chinzei Gakuin

平和通り

Peace Avenue



鎮西学院本部棟
Head Office of Chinzei Gakuin



納骨堂 Charnel House



平和の鐘・平和宣言の碑
Peace Bell and
Peace Declaration Monument



平和祈念碑
Peace Memorial
Monument



ピースチャペル
Peace Chapel



コレル女史像
Mrs. Correll Monument

